

「政治家の発言と言論人の発言はどう違うのですか？」

平成 25 年 7 月 2 日

●ギランバレッタさんからの質問

最近、政治家の発言がたとえ正論であっても大きな批判を受けることが多いように思います。政治家は困難でも正しいことをいうのが仕事かと考えていましたが、正論を言えばいいというものではないように思えてきました。言論人は正論をいうのが仕事と思いますが、政治家は国民を説得、納得させなければたとえ正論を言っても駄目ということでしょうか？西田議員に質問です。「政治家の発言と言論人の発言はどう違うのでしょうか？」

●西田昌司の答え

言論人と政治家は本来はっきりと違う役割を担っているのだと思います。言論人は大局的な見地に立って目指すべき方向を指し示さねばなりませんし、政治家はそれらを踏まえながらも現実を見据えて最善の妥協点を探らなければなりません。しかし、現在の日本において、テレビや新聞等で政治に関する発言をする知識人・学者・コメンテーターの中に「本物の言論人」が非常に少なく、政治家が言論人の役をも担わなければならない状況に追い込まれており、そこに非常に大きな危惧を感じています。

TTP を例にすると、日本はアメリカに安全保障の多くを委ねており、最大の同盟国のアメリカが TPP への参加を日本に要請するならば、日本はなかなか思ったことも言えない立場にあります。現実はどうであっても「そのような姿勢で日本はいつになったら真の独立国になれるのか。日本ももうそろそろ真剣に自主防衛を考えるべきではないか」と問題提起するのが言論人の仕事ですし、一方で政治家は「そうは言っても、中国の脅威が増している現在、そう簡単に自主防衛できるものでもない。日本が絶対に譲れない点は

明確にしなければならないが、その上で TPP 交渉に参加するのも止むを得ないのではないか」といった選択に迫られる場合もあるかもしれません。

しかし、テレビや新聞には、西部邁先生のような少数の本物の知識人を例外として、事の本質を全く捉えていない似非言論人の言説で溢れています。彼らは大衆の不満のはけ口を体制に向かわせて溜飲を下げさせることを意図する大衆迎合的言説を弄し、その流れに乗って大衆に擦り寄る政治家が耳目を集めるといふ衆愚政治に日本の政治は墮してしまっています。

私は「現行憲法は無効」との主張をしています。しかし、「明治憲法下の帝国議会は衆議院と貴族院の二院制であり、参議院は無かったではないか。現行憲法が無効であるならば、参議院議員である西田昌司の存在を否定することになってしまうぞ。参議院議員のお前が何を馬鹿なことを言っているのだ」という、それ自体は全く正しい反論に遭ってしまいます。しかし本来、このような主張は、政治家の私ではなく言論人がすべき仕事です。

私が主張したいことを、他の誰かがテレビや新聞を通じて国民にしっかりと伝えている状況であれば、政治家の私は「現行憲法が無効というのはその通りだが、現実にはそう簡単に破棄できるものでもない。喫緊の危機を回避するためには、憲法解釈を変えることによる集団的自衛権行使の容認、及び、皇室典範の原状回復の2つを急がねばならない」という議論を無理なく展開できるわけです。しかし、テレビや新聞でそのような言論人の主張を見聞きすることはほとんどありませんので、私は言論人と政治家の二役を引き受けなければなりません。

私が強く批判しているグローバリズムについて考えると、アメリカはグローバリズム発祥の地ですが、と同時にグローバリズム批判の発祥の地でもあります。数は少なくとも、ノーベル経済学賞を受賞したスティグリッツ教授やクルーグマン教授といった新自由主義的な政策を強く批判する言論人が存在しており、しっかりと影響力を持っています。アメリカには、自らの枠に捉われずに議論のできる自由な空気があるわけですが、日本では言論人が

表出って活躍するような状況にはなっておらず、これは日本にとって大変に不幸なことです。

大東亜戦争で敗戦した日本は GHQ に占領され、間もなく GHQ 主導による大々的な公職追放が行われました。政治家、役人、旧軍人、大学教授、教師などの 20 万人を超える人が職を追われましたが、代わりに補充された人々の中には、戦前の日本を否定したいいわゆる左翼的な人が多数含まれていました。このように戦後、GHQ による日本解体が始まったのですが、日本は戦後レジームの枠に閉じ込められてしまい、その空間の中でしか物事を考えられないという思考停止状態に今も陥っているのです。

それでも、昭和の時代は戦前の価値観を持った方々が世の中に権をはめてきましたが、昭和から平成に変わる時期に、戦前の教育を受けてきちんとした国家観を持った方が世の中の第一線から退かれ、社会のあらゆる分野で世代が入れ替わりました。平成の時代、戦後の価値観を丸のみで信じてきた人が様々な分野で第一線に躍り出たのです。昭和から平成に変わる時期は、冷戦が終わって世界的に価値観の変動が起こったばかりでなく、日本においては戦後体制がより強固となる地殻変動が起こった時期です。

日本において半世紀以上に渡って続いてきた戦後の常識を覆すことなど一朝一夕にできるはずもありませんが、日本を戦後の枠組みから脱却させることがいかに重要なことかを、一歩ずつ、粘り強く国民に訴えるしかありませんし、それが私の使命だと思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright : 週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>